



水陸機動団特科大隊2次隊連中隊



水陸機動団特科大隊第一射撃中隊



梶田大隊長より力強く陣旗を授与する台中隊長



# 水陸機動団特科大隊 編成完結式

# 湯布院

第 63 号

発行  
湯布院駐屯地後援会  
印刷所  
大野印刷株式会社

## 第112特科大隊廃止式

平成30年3月19日(月)、湯布院駐屯地体育館において「第112特科大隊廃止式」を行い、63年の歴史に幕を下ろしました。



大隊旗返納



第112特科大隊本管中隊 最後の集合写真

平成三十年三月二十七日(火)、雲一つない晴天の中、湯布院駐屯地グラウンドにて「水陸機動団特科大隊編成完結式」を行いました。いかなる事態にあっても、国民の生命と平和な暮らしを断固として守り抜く、という強固な意志のもと「統合機動防衛力」の構築に寄与するため、平成三十年三月二十六日(月)をもって、西部方面特科連隊第一二特科大隊を廃止し、新たに水陸機動団特科大隊として新編されました。これまでの二〇三mm自走りゆう弾砲から一二〇mm重迫撃砲へと装備品を変更し、「即応機動初代大隊長(二等陸佐 梶田稔彦)を核心として、決意を新たに任務に邁進します。



本田三曹による訓練展示



儀じよう(巡脚)



行幸啓記念碑



記念撮影



## 西部方面総監 初度視察

平成二十九年十二月一日(金)、湯浅西部方面総監による初度視察を受けました。当日は、湯布院駐屯地内において、儀じよう・幹部挨拶・状況報告等に引き続き、第一二特科大隊(現：水陸機動団特科大隊)における訓練展示、昭和四十一年に天皇皇后両陛下が行幸啓された記念碑を視察され、湯布院駐屯地の現状について理解を深めていただきました。

## 「転勤の楽しみ」

## カモーンズ★ タイム

今回は、転勤の楽しみについてお話ししたいと思います。そもそも私も防衛大学校に入学するまでは「郷里の鹿兒島で就職するんだろうな」とまざか「自衛隊に入ってから全国転勤族になる」とは夢にも思っていま

せんでした。私は、今四十年代前半になりますが今回の転勤で湯布院は三回目、生涯転勤回数では原隊の第一特科連隊(現第一特科隊)の北富士(山梨県忍野村)を皮切りに六回目となりました。中でも富士地区勤務(二特・富士学校)での幾度の富士登山、東北勤務(六特連)でのスキー・夏山登山は、現在の趣味の二端となることも、東北の日本酒に惚れました。ここ湯布院では、温泉めぐり(共同浴場含む)に心がけ勤務の充実を図っているところですが、あわせて人脈も広がりました。

これから全国異動される皆さん、単身・帯同を含めその先々の土地・人々に惚れていただき、人生を楽しんでほしいと思います。私は、南西(離島含む)を謳歌しましたので、次は北を目指そうかと思っっている今日この頃です。(笑)

第一二特科大隊長  
三等陸佐 勝田 和彦



# 特科隊訓練始め

西部方面特科隊は、新年を迎えるにあたり、真に戦える精強な西部方面特科隊の創造に邁進すべく、壁村隊長を先頭に訓練を開始しました。

雪の中の持続走にも臆することなく、隊員一人一人が平時・有事に拘わらず、部隊の任務に即動し完遂するためにも、地域の方々の信頼を獲得し、武力集団・作戦集団としての実力を向上すべく平成三十年も充実した訓練を行うことを隊員全員が決意しました。



# 駐屯地成人式

平成三十年一月十日(水)、平成二十九年年度駐屯地成人式を行いました。湯布院駐屯地では、新たに四十名の隊員が成人を迎えました。壁村駐屯地司令より、何事にも努力を惜しむことなく、時には勇気を持つて挑戦し、自分自身が後悔することの無いよう、明るく、前向きに人生を切り拓いて行ってほしい」と式辞をいただきました。

成人を迎えた四十名の更なる飛躍を期待します。



# 春風コンサート

平成三十年三月十七日(土)、はさま未来館において、「第十三回春風コンサート」を行いました。当日はホカポカ陽気の青空の中、感謝をテーマとして三部構成により行われました。本コンサート会場は超満員となり、三元気と感動を貰いました。「力強い演奏と高校・中学・幼稚園生に癒されました」など、来場者の方々から数多くの言葉を頂きました。

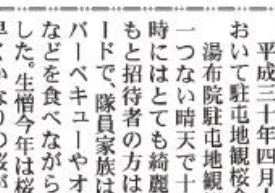


# 自衛官候補生入隊式

平成三十年四月八日(日)、肌寒い青空の下、「自衛官候補生入隊式」を行いました。真新しい制服に袖を通して二十一名の自衛官候補生が入隊式に臨みました。

着隊から一週間とは思えないいきいきとした態度や力強い宣誓などを行い、参列された方々やご家族も見違えたわが子に感激していました。約三ヶ月間の厳しい教育の中、絆を深めて立派な自衛官として卒業できることを期しています。

絆を深めて立派な自衛官として卒業できることを期しています。



# 隊武装走競技会

平成二十九年十二月二十日(水)、日出生台演習場において隊武装走競技会を行いました。

★優勝★

- 本部対抗の部
- 第一三二特科大隊
- 本部管理中隊の部
- 第一二二特科大隊
- 射撃中隊の部
- 第一二二特大二中隊



# 隊銃剣道競技会

平成三十年三月一日(木)、湯布院駐屯地体育館において隊銃剣道競技会を行いました。

★優勝★

- 中隊対抗の部
- 第一三二特大第二中隊
- 個人(陸曹)の部
- 五地対艦連二中隊
- 個人(二期以上の部)
- 第一三二特大一中隊
- 個人(二期未満)の部
- 五地対艦連本管中隊
- 個人(女性)の部
- 五地対艦連一中隊



# 駐屯地観桜会

平成三十年四月十二日(木)、湯布院駐屯地において駐屯地観桜会を行いました。湯布院駐屯地観桜会としては久しぶりの雲一つない晴天で十七時開始時にはとても綺麗な夕日のもと招待者の方はメイロードで、隊員家族は各部隊でパーベキューやオードブルなどを食べながら楽しみました。生憎今年は桜の開花が早くかなりの桜が散ってしまいましたが、八重桜や夕日に照らされる綺麗な由布岳を見ながらパーベキューは盛大に盛り上がりしました。



# 西部方面特科隊

## 本部 中隊

平成三十年三月一日(木)、隊統剣道競技会において、本部中隊(団体戦)として参加しました。団体戦決勝トーナメントへ進出したことがなく、今年こそは！と、精鋭五人衆で本競技会に臨みました。

第一試合(対戦：二二二一中)、先鋒佐藤士長が勝利、全員が波に乗り見事五勝〇敗の勝利を収めました。続く第二試合(対戦：一一二一中)、惜しくも二勝三敗で敗れたものの、試合内容は格別なものでした。

予選リーグ最終戦(対戦：五地対艦連二中)、遂にその時はきた！先鋒佐藤士長が勢いよく勝利、全日本の経験もある次鋒下鶴二曹も鋭い剣さばきで勝利、誰もがあと一勝と思いましたがそう簡単にはいきませんでした。中堅松田三曹、副将安藤三曹も粘つたが惜しくも敗退、二勝二敗となり、大將上原二尉に最後の望みを託しました。この試合の勝利で、初の決勝トーナメント進出のプレッシャーを微塵も感じない、大將上原二尉、本部中隊全員の想いが剣先に込められた瞬間！上原二尉に審判の旗が三本上がりました。

見事決勝トーナメント進出決定！  
誰も予想していなかった予選リーグ一位突破。この勢いを繋ぎと戦った決勝トーナメント一試合目。善戦虚しく、惜しくも二勝三敗でベスト四には進出出来ませんでした。しかし今回の競技会は来年へと繋がる大きな試合でした。

来年の目標は、ベスト四進出！本部中隊の戦いは始まったばかりです。



精鋭五人衆



奮闘する松田三曹(左)

## 第三二二特科大隊

第三二二特科大隊(大隊長勝田三佐)は、平成二十九年大隊検閲(是正訓練)特に即時射撃の検証として、平成二十九年十二月から平成三十年三月にわたって二月に机上検討会、二月に湯布院駐屯地にて射撃連携訓練、三月に日出生台演習場にて大隊是正訓練を行いました。対抗部隊(敵自走砲兵)の頻繁な小移動を想定して、私の観測機関が目撃確認をしてから私のロケットが弾着するまで最速何分で出来るかを検証する訓練です。

【写真①】 机上検討会には北方のMLRS部隊からの情報収集に始まり、活用できる部分を最大限活用して、これまで大隊で培った射撃指揮通話法も含め理論上の最速値を求めました。

【写真②】 次に二月の駐屯地での射撃連携訓練では、射撃指揮所の内部配置(掘示物・電話機・FCCS端末位置など)の動線確保の検討から始まりシステム接続(小隊指揮装置の付加機能の検証含む)の所要時間も併せて計測し、机上検討ではじき出した理論値を概ね達成し、射撃指揮の練度を向上することができました。

【写真③】 三月には日出生台演習場に大隊主力で行進、引き続き陣地占領をして駐屯地での検証を演習場にて検証しました。結果として駐屯地で検証した理論値は達成できましたが、部隊運用上の問題点が多数あり、今後の検証の方向性を認識することができました。

大隊は、平成三十年度も引き続き射撃練習を向上させ、あらゆる事態に即応し任務完了できるよう日々邁進します。



【写真①】 机上検討会の状況



【写真②】 射撃連携訓練の状況



【写真③】 大隊是正訓練の状況

## 第三〇二観測中隊

平成二十九年大隊第七回中隊訓練を平成三十年三月二十六日から同年三月三十日のまでの間で行いました。

長距離機動訓練から始まり中隊命令下達、小隊・班の陣地偵察、夜間の陣地進入、築城など、一連の行動を訓練しました。

今回の訓練は、五月に実施される中隊検閲を見据えたものであり、重機を使用するの工事が出来る、検閲前最後の訓練でした。

様々な状況への対応要領の確認、工事を支援してくれる部隊との調整・連携など、多くの成果を得ることができました。

また、新しく入った隊員については初めての四夜五日の訓練であり、訓練の厳しさを体験することができました。



掩蔽による強固な陣地構築



重機による構築訓練



中隊長による命令下達

# 水陸機動団 特科大隊

水陸機動団特科大隊(大隊長梶田二佐)は、平成三十年三月二十七日に陸上総隊直轄の水陸機動団隷下部隊として新編されました。

水陸機動団は、万が一島嶼を占領された場合、速やかに上陸・奪回・確保するための本格的な水陸両用作戦能力を保有する部隊です。水陸機動団の新編により、島嶼防衛に関する能力向上が図られ、抑止、対処の実効性が向上します。

また、災害派遣においても海上からの迅速な救援活動など、幅広い活動に従事します。



水陸機動団特科大隊は、与えられた任務を確実に実行できるよう、更なる練度向上を目指し、日々練成を積み重ねて参ります。



**■部隊シンボルマークの紹介**  
 黒線…水陸機動団の「水」の文字を剣とともイメージ  
 刺…草薙の剣で強さを表現、陸地に刺さり春回をイメージ。取っ手部分はバドル(種)の形状、ヘリからのキヤスティング(着水)をイメージ  
 金環…日本建国を導いた金色の虎、無欠勝利の象徴  
 水色…航空  
 青色…水上機動能力  
 緑色…陸上機動能力

総じて陸海空の統合による、水陸両用作戦を表現しています。



# 湯布院駐屯地業務隊

平成三十年三月十八日(日)、晴天の野焼き日和の中、日出生台演習場にて全域野焼きを行いました。当初昨日の雨の影響が懸念されましたが、火をつけると勢いよく燃え上がり、たちまち焼け野原になりました。

私は、今年の野焼きは二回目でしたが、草の高い箇所を火をつけた瞬間激しい音と炎が広がる光景は今でも鮮明に目に焼きついています。野焼き作業も順調に進んで、一部を残し無事に終えることができました。

今回私は演習場内の施設の保護を担当しましたが全域野焼きはただ焼くだけでは、演習場内の施設の保護も併せてしなければいけないということを学びました。

野焼きは命懸けの作業でとても大変な作業ですが、この広い演習場を維持していく上で欠かすことのできない作業だと感じました。今後自衛隊員のみならずが快適に訓練ができ、地域の方々も安心して採草・放牧などができるようにこの日出生台演習場を管理していきます。

日出生台演習場管理班  
 防衛技官 高倉 晴輝



平成二十九年日出生台演習場関係調整委員会が三月十三日(火)、日本文理大学湯布院研修所で開催されました。

参加者は、大分県、由布市、玖珠町、九重町、九州防衛局、総監部、湯布院駐屯地、玖珠駐屯地の関係者、総勢四十一名で演習場使用協定に基づき、演習場の長期安定使用に資する住民からの要望事項に対し、総監部などから回答がなされました。また、会議に引き続き意見交換会が行われ、由布市長相馬氏、玖珠町長宿利氏、九重町長日野氏、総監部から防衛副長成田将補、湯布院及び玖珠駐屯地の各駐屯地司令、九州防衛局企画部長が出席し、総勢五十七名で日出生台演習場に係る活発な意見交換が行われました。

湯布院駐屯地業務隊は、日出生台演習場関係調整委員会の事務を担う立場であり、今後も日出生台演習場を長期安定使用するため、引き続き本会議が整齊円滑に行えるよう、より一層の努力をする所存です。

日出生台演習場管理班  
 渉外班長 樋田 雄一

# モニター終了・委嘱式

平成三十年四月八日(日)、モニター終了・委嘱式が行われました。

駐屯地と地域社会の一体化のための意見・要望など聴取して、併せて今後の諸施策に取り組みます。



# 隊内生活体験

平成三十年四月三日(火)から同年四月五日(木)までの間、ヤマエ久野株式会社の五十九名への隊内生活体験を支援(担当:第三〇二観測中隊)しました。

体験入隊者は、着隊後に全般説明を受けた後、基本教練・格闘検定・体力検定・救急法検定・十キロ行軍などカリキュラムに基づき体験入隊を行いました。いつもの日常とは違う、日課制限に基づく行動や団体行動に当初は苦労をしましたが、仲間意識や協調性、時間の大切さを学び、記憶に残る体験となりました。

体験入隊者からは、「この体験で規律の大切さ、時間の大切さを学びました。話したことがない人がいて不安であったが、この体験のおかげで絆がうまれた。新社会人として時間も有意義に、余裕を持って生活していきたい。」などの感想を頂き、社会人としての第一歩を踏み出しました。





# 第一〇一特科直接支援隊

第一〇一特科直接支援隊は平成三十年三月八日(木)に日出生台演習場(小岩属地区)において、平成二十九年武装走競技会を行いました。本競技会は、小部隊の団結の強化と隊員の士気高揚を図る目的で行われました。競技は陸曹候補生履修前教育隊を含めた各中隊を小隊と班ごと4、5、6名のチームに分けました。女性隊員を含むチームとの公平性を図るため、男性隊員は重量物(三キ口)を身につけ行いました。

当日は、大雨・濃霧の悪天候となり視界も悪く足元が滑る中行われました。隊員は、起伏の激しいコース(約三キ口)を互いに励まし合い、協力しながらチーム全員での完走を目指しました。また、目達原駐屯地より西部方面後方支援隊長佐々木一佐が本競技会を視察され、隊員を激励しました。結果については、部隊の部では整備隊が優勝、チームの部では成畑二曹率いる整備隊火車小隊Bチームが優勝しました。

各人がこれまで練成した成果を出し切り、仲間を励まし合いながら最後まで走り抜き、団結と帰属意識の高揚を図ることができました。



優勝した整備隊火車小隊Bチーム



激走する隊員



# 第三六八施設中隊

第三六八施設中隊は、平成二十九年十月六日から同年十月八日までの間、雨が降りしきる中、日出生台演習場にて平成二十九年中隊訓練検閲を受閲しました。訓練内容は、九州本土への敵の侵攻阻止を任務とする部隊内の施設中隊としての行動を行いました。

交通小隊は、油圧ショベルなどの重機器材を駆使してメガネ原道拡幅任務と大平原道排水設備任務を行いました。渡河器材小隊は、日向山及び篠原地区の二か所に自走架柱橋による橋梁を架設しました。中隊本部は、指揮所と炊事所の開設・運営を行い、各小隊の人的・物的戦闘力の維持向上に努めました。隊員一人一人が中隊長要望事項である「目配り、気配り、心配り」を胸に、無事故かつ要求された時期までに任務を完遂させました。

中隊の隊員は、日頃の訓練で積み重ねた施設能力を十分に発揮させて、中隊長を核心として一丸となり任務に邁進することができました。無事に任務完遂したという自信と共に、三十年度への目標を確立することができました。平成三十年度も施設能力を高めるべく、充実した訓練を行ってまいります。



重機による指揮所構築



自走架柱橋による橋梁



# 第一〇三施設直接支援大隊

第一〇三施設直接支援大隊第一直接支援中隊湯布院派遣隊(演武二尉以下一〇名)は、平成三十年二月十四日(水)から同年三月十六日(金)までの間、飯塚駐屯地訓練場内で実施された平成二十九年中隊検閲を受閲しました。

中隊検閲は、今まで積み上げてきた訓練成果を最大限に発揮できる場です。まず、先発隊及び主力に分散し、索敵により安全化を図り、主力の誘導や施設構築、警戒及び自衛戦闘など一連の状況下で訓練を実施しました。今回の中隊検閲に備え、様々な場面を想定して訓練を重ねてきました。特に捕虜の取り扱い要領や拘束要領、夜間における警戒要領を訓練し、各隊員による敵を意識した行動を訓練しました。

今回の検閲では訓練成果が十分に発揮され、整備部隊で要となる整備所天幕設置では、基本基礎動作を確実に行うことで設置時間を短縮することができ、速やかに整備作業に取りかかれました。この検閲で隊員一人一人が任務を積極的に遂行し、中隊として任務を完遂することができました。



夜間配置場所を確認する隊員



不審者拘束風景



# 第三〇四基地通信中隊

二十九年度当初より計画されていた部隊改編に伴う通信工事を、十二月中旬から三月末の間で、二つの隊舎と一つの工場に対して行いました。隊舎改修工事の遅延などの影響を受ける中での通信工事でしたが、三月末の部隊改編に向けてその都度計画を見直しして工事を行ってまいりました。

今回の通信工事の特性として、平成三十年二月五日〜十六日の間で行った隊舎間の光回線工事は、派遣隊として初めての通信工事でした。工事を行うにあたり、経験者不在の中でも万全の準備などを行うことで派遣隊員が一丸となり光回線の遅延工事を終えることができました。

次年度以降においても、改編に伴う通信工事を引き続き行っていき、ユーザーのための通信を必要とする時期に提供することができるよう、これからの派遣隊一丸となつて駐屯地の各駐屯部隊のための通信を繋いでまいります。



光ケーブル融着作業



高所作業車による光回線構築



光ケーブル引込み作業

平成二十九年年度  
後期定期異動

着任特科隊副隊長



一等陸佐  
後藤 明

離任特科隊副隊長



一等陸佐  
石丸 信二

上番最先任上級曹長



准陸尉  
池田 正広

下番最先任上級曹長



准陸尉  
板村 浩

転出先  
(別府駐屯地業務隊)

別れもあれば、  
出会いもあるグワッ



転入者の紹介

特科隊本部

第七特科連隊 (東千鳥) 三曹 成田 直人  
幹部候補生学校 (前川恵) 三佐 松水 慶二  
特科教導隊 (富士) 三佐 藤本 教典  
第三特科連隊 (尾道) 三佐 藤田 直也  
第五地对艦ミサイル連隊 (倉敷) 二尉 柴垣 健一

本都中隊

特科教導隊 (富士) 曹長 川尻 敏広  
自衛隊福岡病院 (長尾) 曹長 才田 忠正  
第五地对艦ミサイル連隊 (倉敷) 一曹 樺 正臣  
防衛大学校 (横須賀) 二曹 伊城 哲哉  
大分地方協力本部 (大分) 二曹 清原 健蔵  
第五地对艦ミサイル連隊 (倉敷) 二曹 宮本 美佳

第一三二特科大隊

福岡地方協力本部 (福岡) 二曹 下田 卓

第一二二特科大隊

幹部候補生学校 (前川恵) 三佐 齊藤 智久  
第五地对艦ミサイル連隊 (倉敷) 三佐 本田 裕  
第十三特科連隊 (日本橋) 一尉 金津 周平  
第四特科連隊 (久留米) 二尉 村上 裕之  
第八特科連隊 (北熊本) 二尉 高木 直人  
第一空挺団特科大隊 (宮田野) 曹長 山崎 康生  
第四特科連隊 (久留米) 二曹 山崎 康生  
第一空挺団特科大隊 (宮田野) 曹長 山崎 康生  
第四特科連隊 (久留米) 二曹 山崎 康生

第一〇一特科直接支援隊

第三後方支援連隊 (分遣) 一尉 萩野 輝彦  
第四後方支援連隊 (別府) 一尉 菅元 友和  
第三後方支援連隊 (福岡) 二曹 合屋 篤史  
第四後方支援連隊 (久留米) 二曹 瀨口 哲弘  
第十五後方支援連隊 (鹿野) 二曹 荒瀬 光紀  
第九後方支援連隊 (青森) 三曹 伊勢崎 成哉  
第四後方支援連隊 (久留米) 三曹 泊ヶ山 新司  
第八後方支援連隊 (玖珠) 三曹 中野 圭太  
九州補給処 (自衛隊) 三曹 篠原 広樹  
第十五後方支援連隊 (鹿野) 三曹 野中 竜馬

第三〇〇三連隊

吉住 契平  
境 星矢  
武田 大輝  
高橋幸史郎  
中村 健児  
伊藤聡一郎  
和田 裕二  
田村 裕二  
高橋 良光  
松本 光  
友和 友和  
津田 浩志  
西 正志  
中川 和紀  
小野 信孝  
西野 祐二  
北方 智大  
西野 祐二  
岡山 和彦  
吉田 知矢  
農中 幸寛  
宮本 直隆  
森 秀輝  
木村 明彦  
本田健志郎  
津間 章誠  
清上 卓也  
築地原 健太

第三〇〇四施設隊

山崎 学  
下田晋之介  
施設教導隊整備中隊 (鹿野) 三曹 柴山 和久

第三〇〇四基地通信中隊

湯布院派遣隊  
第三〇〇四基地通信中隊 (好摩) 二曹 後藤 智明  
第三〇〇四基地通信中隊 (大分) 一士 阿部 彰吹

第一〇三施設直接支援大隊

第一〇三施設直接支援大隊 (小郡) 一曹 永田 勇人  
第一〇三施設直接支援大隊 (小郡) 一曹 永田 勇人  
第一〇三施設直接支援大隊 (小郡) 一曹 永田 勇人

転入者の紹介

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (川原) 中隊 井上 利宏  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 三尉 古光 弘幸  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一曹 岡 賢司  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一曹 加藤 秀明  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一曹 加藤 秀明  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一曹 加藤 秀明

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 米崎 哲男  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 鈴木 宜彦  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 福永 良一  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

湯布院駐屯地業務隊

湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学  
湯布院駐屯地業務隊 (熊本) 一尉 岩水 学

みなさんそれぞれの場所でも、  
「明るく前向きに。」頑張るグワッ



定期昇任者

- ★二等陸佐へ
  - ★第一二二特科大隊 永翁 治彦
  - ★本部中隊 上原 正行
  - ★本部中隊 陸曹長へ
  - ★駐屯地業務隊 大塚 和博
  - ★陸曹長へ
    - ★第一二二特科大隊 大戸 貴文
    - ★第一三三特科大隊 松岡 洋
    - ★第三〇二観測中隊 垣添 友和
    - ★第一〇一特科直接支援隊 平田 正好
    - ★駐屯地業務隊 久保 勝一
    - ★本部中隊
      - ★一等陸曹へ
        - ★第一三三特科大隊 渡邊 卓也
        - ★第一〇三施設中隊 石橋 健治
        - ★本部中隊
          - ★二等陸曹へ
            - ★本部中隊 衛藤 郁
            - ★第一二二特科大隊 月足 好春
            - ★第一三三特科大隊 朝田太志郎
            - ★第三〇二観測中隊 岩永 大樹
            - ★第三六八施設中隊 岩元 利彰
            - ★二等陸曹へ
              - ★第一二二特科大隊 深海 拓哉
              - ★第一三三特科大隊 長山 忠明
              - ★第一二二特科大隊 佐藤 雅己
              - ★第三〇二観測中隊 能 康平
              - ★第三〇二観測中隊 足立 涼輔
              - ★第三六八施設中隊 井村光太郎

定期表彰者

- ★第一〇一特科直接支援隊 梅ヶ谷純一
- ★第四〇四会計隊 梅ヶ谷純一
- ★第三〇二観測中隊 甲斐 和盛
- ★第一〇一特科直接支援隊 東島 基貴
- ★第一〇一特科直接支援隊 大城戸永吉
- ★第一〇一特科直接支援隊 三銅 奨虎
- ★第三〇二観測中隊 福永 秀樹
- ★第三〇二観測中隊 石井 貴裕
- ★第三〇二観測中隊 川本 真一
- ★第三〇二観測中隊 高木 仁男
- ★第一〇一特科直接支援隊 岡部 秀康
- ★第一〇一特科直接支援隊 安部 翔太
- ★第三〇四基地通信中隊 幸 伸太郎
- ★駐屯地業務隊 長野 順治
- ★第一〇一特科直接支援隊 倉野 浩成
- ★第一〇一特科直接支援隊 山野 真爾
- ★第一〇一特科直接支援隊 山田 守相
- ★第一〇一特科直接支援隊 衛藤 正明
- ★第五級賞詞(職務遂行)
  - ★第一二二特科大隊 大塚 和博
  - ★第一二二特科大隊 鳴末 貴志
  - ★第一二二特科大隊 熊淵川輝夫
  - ★第一二二特科大隊 芳刈 春樹
  - ★第一二二特科大隊 甲斐 亜衣
  - ★第一二二特科大隊 篠原 尚人
  - ★第一二二特科大隊 植田 晃平
  - ★第一二二特科大隊 佐藤寿稀也
  - ★第一二二特科大隊 我妻 勲
  - ★第一二二特科大隊 大石健二朗
  - ★第一二二特科大隊 渡部 亮典
  - ★第一二二特科大隊 中内 和徳
  - ★第一二二特科大隊 小野田啓一
  - ★第一二二特科大隊 高橋 和也
  - ★第一二二特科大隊 板橋 良宏
  - ★第一二二特科大隊 谷脇 厚志
  - ★第一二二特科大隊 白岩 友暉
  - ★第一二二特科大隊 米崎 哲男
  - ★第一二二特科大隊 松村 亮佑
  - ★第一二二特科大隊 河野 文夫
  - ★第一二二特科大隊 南 忠久
  - ★第一二二特科大隊 高橋 賢臣
  - ★第一二二特科大隊 河野 賢臣
  - ★第一二二特科大隊 荒神 光国
  - ★第一二二特科大隊 瀬戸口 明
  - ★第一二二特科大隊 山口 悠太
  - ★第一二二特科大隊 増野 恭教
  - ★第一二二特科大隊 小野 拓徳
  - ★第一二二特科大隊 定田 勇拓
  - ★第一二二特科大隊 岩永 貴士
  - ★第一二二特科大隊 若刈 春樹
  - ★第一二二特科大隊 渡邊 健翔
  - ★第一二二特科大隊 橋原 健梧
  - ★第三〇二観測中隊 上松 泰恵
  - ★第三〇二観測中隊 寺崎 龍
  - ★第三〇二観測中隊 藤原 完成
  - ★第三〇二観測中隊 原之園大輔
  - ★第三〇二観測中隊 玉置健太郎
  - ★第三〇二観測中隊 中村健太郎
  - ★第三〇二観測中隊 谷丸 徳一
  - ★第三〇二観測中隊 大走 竜一
  - ★第三〇二観測中隊 大神 栄作
  - ★第三〇二観測中隊 横山 勇樹
  - ★第三〇二観測中隊 後藤 克成
  - ★第三〇二観測中隊 首藤健太郎
  - ★第三〇二観測中隊 本田 瑞希
  - ★第一〇一特科直接支援隊 川野 和哉
  - ★第一〇一特科直接支援隊 伊東 景仁
  - ★第一〇一特科直接支援隊 水原 智貴
  - ★第一〇一特科直接支援隊 岩下 順子
  - ★第一〇一特科直接支援隊 若杉 泰三
  - ★第一〇一特科直接支援隊 茂里 寿幸
  - ★第一〇一特科直接支援隊 上村 慎一
  - ★第一〇一特科直接支援隊 吉武 輝幸
  - ★第一〇一特科直接支援隊 田中 稔康
  - ★第一〇一特科直接支援隊 西野 恵美
  - ★第一〇一特科直接支援隊 河野 透
  - ★第一〇一特科直接支援隊 岡 賢司
  - ★第一〇一特科直接支援隊 高瀬 安彦
  - ★第一〇一特科直接支援隊 佐名田大希
  - ★第一〇一特科直接支援隊 北原 諒太
  - ★第一〇一特科直接支援隊 太郎良康平
  - ★第一〇一特科直接支援隊 堤 弘
  - ★第一〇一特科直接支援隊 堀 未来
  - ★第一〇一特科直接支援隊 今市 一織
  - ★第一〇一特科直接支援隊 今市 愛理
  - ★第一〇一特科直接支援隊 堀 佑樹
  - ★第一〇一特科直接支援隊 河野 行宏
  - ★第一〇一特科直接支援隊 高山 直樹
  - ★第一〇一特科直接支援隊 黒木 翔太
  - ★第一〇一特科直接支援隊 高橋 和輝
  - ★第一〇一特科直接支援隊 岩永 春樹
  - ★第一〇一特科直接支援隊 若刈 貴士
  - ★第一〇一特科直接支援隊 渡邊 健翔
  - ★第一〇一特科直接支援隊 橋原 健梧

- ★第一〇一特科直接支援隊 岩下 順子
- ★第一〇一特科直接支援隊 若杉 泰三
- ★第一〇一特科直接支援隊 茂里 寿幸
- ★第一〇一特科直接支援隊 上村 慎一
- ★第一〇一特科直接支援隊 吉武 輝幸
- ★第一〇一特科直接支援隊 田中 稔康
- ★第一〇一特科直接支援隊 西野 恵美
- ★第一〇一特科直接支援隊 河野 透
- ★第一〇一特科直接支援隊 岡 賢司
- ★第一〇一特科直接支援隊 高瀬 安彦
- ★第一〇一特科直接支援隊 佐名田大希
- ★第一〇一特科直接支援隊 北原 諒太
- ★第一〇一特科直接支援隊 太郎良康平
- ★第一〇一特科直接支援隊 堤 弘
- ★第一〇一特科直接支援隊 堀 未来
- ★第一〇一特科直接支援隊 今市 一織
- ★第一〇一特科直接支援隊 今市 愛理
- ★第一〇一特科直接支援隊 堀 佑樹
- ★第一〇一特科直接支援隊 河野 行宏
- ★第一〇一特科直接支援隊 高山 直樹
- ★第一〇一特科直接支援隊 黒木 翔太
- ★第一〇一特科直接支援隊 高橋 和輝
- ★第一〇一特科直接支援隊 岩永 春樹
- ★第一〇一特科直接支援隊 若刈 貴士
- ★第一〇一特科直接支援隊 渡邊 健翔
- ★第一〇一特科直接支援隊 橋原 健梧

永年勤続、お疲れ様でした。

- ◆本部中隊 (退官日) 十月二十日
- 准陸尉 遠嶋 茂 (退官日) 十月二十日
  - 准陸尉 志賀 達見 (退官日) 十月二十日
  - 准陸尉 柴田 寿一 (退官日) 十月二十日
- ◆第三〇二観測中隊 (退官日) 十月二十四日
- 准陸尉 古江 孝次 (退官日) 十月二十四日
  - 准陸尉 前山 勝弘 (退官日) 十月二十四日
- ◆第一二二特科大隊 (退官日) 十月九日
- 二等陸尉 長友 政幸 (退官日) 十月九日
  - 二等陸尉 水嶋 辰也 (退官日) 十月九日
- ◆第一三三特科大隊 (退官日) 十一月十日
- 准陸尉 緒方 慎一 (退官日) 十一月十日
- ◆駐屯地業務隊 (退官日) 十一月十日
- 准陸尉 木下 幾雄 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 山本 幸喜 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 小田 忠利 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 高 康二 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 古田 新吾 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 北澤 健一 (退官日) 十一月十日
  - 准陸尉 松崎 裕明 (退官日) 十一月十日

定年退官者紹介

- ◆結婚おめでとう
- ★第一三三特科大隊 小野原史朗 桑子 神亮
  - ★第一三三特科大隊 森田 粧也
  - ★第三〇二観測中隊 古賀洋二郎
  - ★第一〇一特科直接支援隊 岡本 光康
  - ★第一〇一特科直接支援隊 白川 哲郎
  - ★第一〇一特科直接支援隊 溝上 輝一
  - ★第一〇一特科直接支援隊 代口 流星
  - ★第一〇一特科直接支援隊 甲斐 和盛
  - ★第一二二特科大隊 高橋 和也
  - ★第一二二特科大隊 浦田 正平
  - ★第一二二特科大隊 遠藤 広幸
  - ★第一二二特科大隊 柳 翼
  - ★第一三三特科大隊 中山 裕康
  - ★第一三三特科大隊 矢野 貴治
  - ★第一三三特科大隊 今村 裕広
  - ★第一三三特科大隊 合澤 圭祐
  - ★第一〇一特科直接支援隊 榎 秀征
  - ★第一〇一特科直接支援隊 榎 侑真
  - ★第一〇一特科直接支援隊 本田 聡
  - ◆本部中隊 永井 幸成 (長男・結理)
  - ◆第一二二特科大隊 古賀 慎也 (次女・愛佳)
  - ◆第一二二特科大隊 月足 好春 (長男・光)
  - ◆第一二二特科大隊 菅原 康裕 (次男・凌)
  - ◆第一二二特科大隊 原口 一星 (次男・一穂)
  - ◆第一二二特科大隊 波部 亮典 (長男・繁志)
  - ◆第一二二特科大隊 吉武 健次 (長男・聖志)
  - ◆第一二二特科大隊 飯割 良宏 (次男・巧史)
  - ◆第一二二特科大隊 成清 祐作 (長男・実紗)
  - ◆第一二二特科大隊 太郎良康平 (四男・活樹)
  - ◆第一二二特科大隊 榎 駿友 (三女・日穂)
  - ◆第一二二特科大隊 佐藤 直樹 (長男・碧希)
  - ◆第一二二特科大隊 山野 翔太 (長男・悠)
  - ◆第一二二特科大隊 松田 直樹 (次男・圭司)
  - ◆第一二二特科大隊 山田 悠貴 (次男・貴徳)
  - ◆第一二二特科大隊 宮平 政哉 (次女・彩彦)
  - ◆第三〇二観測中隊 佐藤 亮太 (長男・大樹)
  - ◆第三〇二観測中隊 安部 慎一 (長女・一穂)
  - ◆第三六八施設中隊 橋本 字一 (長男・大也)
  - ◆第三六八施設中隊 飯野 詢介 (長男・健悠)
  - ◆第一〇一特科直接支援隊 首藤健太郎 (長男・悠)
  - ◆第一〇一特科直接支援隊 伊東 仁仁 (次男・文恵)
  - ◆第一〇一特科直接支援隊 江下 栄朗 (長女・夢乃)
  - ◆第一〇一特科直接支援隊 岩持 幸一 (次女・百合子)
  - ◆第一〇一特科直接支援隊 諏訪 裕之 (次男・龍臣)
  - ◆第三〇四基地通信中隊 川村 翔大 (長男・海樹)
  - ◆駐屯地業務隊 山下 慎司 (長女・陽菜乃)

# ★ 訓練に参加して ★

平成三十年一月十日から同年三月十五日の間、初級部隊通信教育に参加しました。

教育開始直後は操作したことの無い器材や聞きなれない通信用語、教育参加者の三分の二は他駐屯地から来ており最初の方はぎこちなさがありました。しかし、器材の操作方法や疑問点、通信の技術で苦手なことなどを同期みんなで話し合ううちに、いつの間にか打ち解けていきました。その中で、私は特に接続と縛着が苦手でもうしても時間がかかりました。時間を優先すると精度が疎かになり毎日毎日夜遅くまで同期と練習をしました。そんな時に課業外に中隊の先輩方がわざわざ時間を割いて、接続と縛着の要領やポイントを親切に教え直し、そのお陰で疎度を向上することができました。このように教えて下さる教官、班長、中隊の先輩方のためにも有線通信手としての自覚・プロ意識を持って、これまでに以上に努力をして中隊に貢献していきたいです。

約二か月間の教育でしたが、三十一名の同期と切磋琢磨してきた日々はかけがえのない大切な思い出です。この二か月間で学んだことを無駄にはせず、これからもこのかけがえのない思い出とともに、有線通信手として日々努力していきたいです。

## 第三〇二観測中隊

一士 田栗 杏華



縛着訓練

平成二十九年十月六日から同年十月八日までの間、中隊訓練検閲に参加しました。私は今回初めて中隊訓練検閲を経験しました。この検閲で私は交通小隊の分隊長として参加しました。最初の任務は、小隊の先行班として集結地の偵察を行い、小隊指揮所や器材置き場の構築を行いました。雨の中での構築任務は、私が思っていた以上に時間がかかりとても大変でした。次に、排水溝構築のための分隊長として任務にかりました。夜間での任務が多く昼間時と違い事故や怪我が起きやすく、チェンソーなどの危険な工具も使用したため安全管理には、疲労以上に気を遣っていました。検閲では、疲労と眠気が溜まっていき、時々投げそうなる時もありました。けれど中隊全員が頑張っているのを見て、私も負けられない！と、与えられた任務を全力で行いました。

今回、検閲に初めて参加して精神・体力面が普段よりきつかったのですが今後は先輩隊員の見本となるように普段から自分を鍛え、今以上に中隊に貢献していきたいです。

## 第三六八施設中隊

士長 嶋末 勝



下段一番左が本人

# ◆ よか趣味 ◆

私の趣味は料理です。自衛隊生活ではなかなか料理をする機会がありませんが、休みなどを利用して材料を揃えて本格的に調理しています。料理人ではないので失敗も多々ありますが、それでも自分で調理した料理はすくおおいいです。もっとおいしくできないかスマートフォンなどで料理サイトを見て研究しています。

特にお気に入りの料理サイトは「クラシル」というサイトです。みんなが知っている基本的な料理から、自分では想像もしたことない料理などが投稿されています。最近作った料理は、ベイクン入り野菜炒めです。とても単純な料理ですが、単純だからこそ味の調整が難しかったり、研究しながら調理した時間はとても楽しかったです。これから更に研究して料理の腕を向上させたいです。

## 水陸機動団特科大隊

本部中隊 士長 平尾 将太



# ♪ わが家自慢 ♪

私の趣味は海釣りです。その中でも特に好きな釣りはアオリイカを釣る、通称「モイカ」釣りです。十一月から三月にかけて大分県佐伯市の離島までフェリーに乗って行っています。モイカはイカの中でも高価で、あまり店先にも出ないイカです。刺身・天ぷら・煮物でおいしく料理できます。自宅から二時間、それからフェリーに乗って行くので交通費もかかりますが、モイカの味・価格、私のストレス解消を考えれば費用対効果「釣果」は高いです。大分県に転勤して始めた趣味で、毎年家族から「店で買った方が安い」と言われますが、十一年続いています。

最近資源の減少、地球温暖化などで費用対効果は悪くなりつつありますが、「小さい魚はリリース、訪れたときよりも美しく、心をなごませる海に感謝」を心がけて海の恩恵にあやかっています。

## 第一三二特科大隊

第二中隊 曹長 山口 慎吾



釣果「モイカ」

平成二十九年十二月に約三年の交際期間を経て結婚しました。喧嘩も多く騒がしい毎日を送っていますが、それでも毎日一緒にいられる幸せを噛み締めています。約六年間の営内生活から一転、営外での生活で慣れないこともある中、妻のお腹の中に新しい命が宿りました。正直まだ一人の男として未熟な自分が父となり、家族を支えていけるか不安もあります。が、家族に誇られる男になれるよう精一杯努力します。妻もお腹がどんどん大きくなり、わが子の成長に幸せを感じますが、妻の身体も不調を訴えることが多くなりました。妻の負担を少しでも減らそうと家事を手伝うのですが上手くできず、特に料理では卵焼きを作ったつもりがいつもスクランブルエッグになってしまいます。

そんななかなか良いサポートのできない私にいつも笑顔で「ありがと」と言ってくれる妻と、一生懸命成長してくれているわが子に感謝し、夫として父として頑張っています。

## 第一〇一特科直接支援隊

三曹 溝上 輝一

